

第17回鎌倉市観光基本計画進行管理委員会会議要旨

日時：平成25年7月26日（金）13：10～15：00

場所：鎌倉市役所 第2委員会室

出席：古谷委員長、中根副委員長、牧田委員、藤川委員、御法川委員、岩田委員
事務局：梅澤部長、磯崎次長、齋藤担当課長、江口課長補佐、齋藤職員、穂田職員
傍聴者：なし

- 議事の概要
1. 開会あいさつ
 2. 庶務事項
 3. 審議事項
 - (1) 平成24年度実績概要について
 - (2) 平成25年度版進行管理評価報告書の内容等について
 4. その他
 5. 閉会あいさつ

1. 開会あいさつ

2. 庶務事項

3. 審議事項（1）平成24年度実績概要について

ア. 平成24年度の実績及び事業概要

事務局から平成24年度の実績概要等について説明を行った。

（委員）5ページの写真の中に公衆トイレのユニバーサルデザイン化と書いてあって、洋式化や暖房便座の導入と書いてあるが、お金がない中で外に設置されている公衆トイレに暖房便座は必要なのか。

（事務局）公衆トイレを改修する際は、障害者の方やお子様連れの方たちに優しいトイレに改修するというので、ユニバーサルデザイン化と書かせていただいている。

（委員）海外では暖房便座がほとんどなく、しかも有料化されて費用対効果が相当考えられている。その点が今後の課題かなと思う。

（委員）5ページに海水浴場のネーミングライツ導入に向け検討を行いましたと書いてあるが、単純に検討を行いましたという記述で終わってしまっている。役所内部でも賛

否両論あったという話を聞くので、書き方が単純に検討を行いましたでいいのかということがある。賛否両論ある中で検討しましたという書き方でもいいのではないか。また、観光トイレ協力店制度について検討を行いましたと書いてあるが、実際前々から懸案材料で、実際に市が駐車場の中につくることに関して協力するところが出なかったから協力店制度にしたということだが、うまくいっていないと聞いている。実際にこの制度で協力してもらえるお店はコンビニエンスストアくらいしかない。鎌倉駅から鶴岡八幡宮に向けてコンビニは1件しかないので、ほとんどこの協力店制度は機能を果たしていない。コインパーキングに対する公衆トイレの設置を市が要望しているということだが、実際にその駐車場を経営している方からは市から公衆トイレを設置するという協力要請はなかったと聞いている。地元では切実な要望が出ているのにこの書き方だとあっさりした文章となっている。本当に市が努力したのかどうかということを改めて市の方の説明をお聞きしたいと思う。

(事務局) ネーミングライツについては、導入に向けて制度の検討を行ったということで、この記述の通りである。そもそも海岸は県が管理しており、海水浴場は市が県の許可を受けて設置しているが、その許可を受けて設置する海水浴場に対してネーミングライツが法的に可能かどうか県との調整を行いながら導入に向けて制度の検討を行ってきた。賛否両論があったかどうかは、少なくとも私の知る限りでは、内部的に異論はなかった。観光トイレ協力店制度については、若宮大路、小町通りの公衆トイレは長年の課題である。その中でコインパーキングの設置時に、公衆トイレを設置していただけたところには協力金を支払うという制度を平成20年に設けた。それ以来、コインパーキングの設置の事前相談があったときには、必ず事業者と協議をして依頼をしている。ただ、それはコインパーキング設置の手続きをする事業者との協議になっているので、その後実際の経営者まで話がいったというケースはあるかもしれない。基本的には事前に協議する中で必ず設置についてお願いをしているが、実績としては1件もあがっていないというのが現実である。そこで、各通り沿いの店舗にも観光客向けのトイレの提供というものができないかということを実施計画事業の中で掲げ、その中で協力金をお支払いして、観光客へのトイレの提供を促す観光トイレ協力店制度を考えており、その制度の検討を行ったところである。ご指摘のとおり、協力してもらうことが難しいというようなご意見も多く、まだ制度が定められていないというのが現状である。

(委員) 現状がよくわかった。コインパーキングは事前の協議ということなので、既設の駐車場に関しては、改めて市からお願いするということはしていないということか。

(事務局) 今はしていない。

(委員) 概ねわかった。市民の満足度は上がっているが、観光事業者の満足度がかなり下がっている。今の公衆トイレの問題も含めて気になるのは、観光事業者とはある意味一番実状をよく知っている人たちなので、今後の課題としていろいろな点で考えていけないといけないのではないかと思う。事業者のアンケートの中に、トイレの問題は、それほどこれが不満というのが増えているという感じでないのは意外だ。13ページの移動とか交通手段の満足度が19年度から見れば23年度は一番上がっていたが24年度はまた少し下がってしまったという現状がある。市には渋滞問題の対応策があったりすると思うが、事業者の意識調査が低い結果になっているということは、いろいろと考えさせる部分ではないか。

(委員長) 只今の意見ですが、ここは実績概要を記述するところであって、各取り組みの新しい事業については賛否両論あるのは当たり前で、取り組みについて賛否両論あると一文ごとに書く必要はないと思う。あっさりとしたというご意見もあるかもしれないが、逆に書くのは難しいのかなと思う。事業者の意識調査は、どちらかということとサンプル数が少ないので、上がったとか下がったとかの議論をできるものではなく、あくまでも参考の数値ということでもいいのではないかと思う。

(委員) 5ページの暖房便座や海水浴場のネーミングライツというのは、観光地としての質の管理、向上と財源の問題であると思う。全国的に共通する課題で、最たる例が富士山の入山料の徴収を実験的にやったことである。別に入山をコントロールするだけでなく、それを観光財源として清掃なり環境理解にあてる。だからきれいな富士山が出来るんだということと同じで、暖房便座がいいかどうかというのは、屋外トイレで、日本だからこそ、その中の鎌倉だからこそ、屋外の公衆トイレが暖房便座になっているぞというくらい、もてなしをやるにふさわしいと思っている。財源をどうしましょうかというときに、従来行政に全部おんぶで組んだらもたない。それを全体の一つの観光財源という形でこのネーミングライツというのも、目新しさということよりも、財源の大きな一つの手だてとしてあてにする部分だと思う。ただ一点は、町名の変更とか合併ではよくある話だが、文化性として例えば材木座というその固有名詞はメーカーなどがネーミングライツパートナーとしてついたとしても、サブネームなりタイトルとしてはきちんと残してほしい。それともう一点、後半の事業者へのアンケートですが、これも何年前にこの場でも申し上げているが、観光事業者が従来の観光スタイルで鎌倉を利用しやすいとか思っているとしたら、また、不平不満が、団体バスが入らないじゃないか、渋滞してお客さんに迷惑がかかるじゃないか、というような意識がもしあるとしたら逆にそれは観光事業者さんに、今の時代、鎌倉のような観光地の観光の仕方や商品の作りこみ方を環境や文化に合わせ、公共交通主体にするとか、バスを大型でない仕立てにするとか、鎌倉の環境なり観光の質に合わせた旅行会社の旅行商品を考えていただきたい。これくらいの誇りをもってやられてい

いと思う。ただ、どういう点に不安があるか、統計をとって終わるだけでなく、各旅行会社がお客さんの声等、どういう意識をもっているかということは、ヒアリングや自由回答で押さえた方がよい。

(委員) この28店舗の事業者が前回アンケートに答えているのかどうか、そしてその人たちがどのように変化したのかは、これくらいの数ならできると思うので、掘り下げてみていただくとありがたい。そこを見ていくことによってもっといろいろなことが明らかに見えてくると思う。

(委員長) 名前はあげられないかもしれないが、具体的にどのような事業者なのか教えていただきたい。

(事務局) 基本的には観光商工課にツアーの参考用に資料請求があったすべて旅行会社にアンケートを送付している。返してもらえるかどうかは事業者さん次第である。

(委員長) 28店舗は規模が大きいところなのか、それとも個人事業者なのか。

(事務局) 法人もあれば小さい事業者も混ざっている。

(委員) よく観光事業者を利用して国内外に観光やハイキングに行くのだが、その際に鎌倉に住んでいるという話がよく話題になる。比較対象がいいかどうかは別として、イタリアのアマルフィ海岸などは鎌倉によく似ている。財政の問題に関して、公衆トイレや普通の店舗でもトイレは基本的に有料となっている。また、車の問題だが、街に入る前に小さなバスに乗り換え、大型車で街中移動しないようになっている。それが実現している。鎌倉でもやればできるし、方法もわかっている。ただこれが行政や市議会で合意が取れていないことではないかと思っている。

(委員長) トイレを有料化してもいいのではないかという話は、国際観光部会でも話が出た記憶があるが、それぞれの部会で議論が出たことはどこかでシェアするようにしたほうが良いかもしれない。トイレは外国人が来て最初に目に付くので、鎌倉だからこそのトイレというものがあってもいいかなと思う。

(委員) 先程アマルフィ海岸の話をしてしたが、空間的な問題よりも、日本特にその中で鎌倉の観光客数というのは桁違いに多い。トイレについても汚し方でも清掃する頻度も桁違いであるし、手間がかかる。人を使わなければならないという実態の中で、水準を担保すべきであれば有料化があってもいいと思う。その財源と体制を全体で捉えていくことが大切ではないかと思う。

(委員) サインの関係であるが、鎌倉の小町通りの案内板の多言語化はどれくらい進んでいるのか。

(事務局) まず、道路の辻辻にこちらが鶴岡八幡宮です、こちらが大仏です、というようなルート表記が市内137箇所あって、これについては日本語を含めて、全て4ヶ国語表記になっている。駅前や大きな観光地である鶴岡八幡宮の境内や人が多く集まる場所にある総合案内板というものがあり、市役所前の信号のところの脇にもある広域的な案内板についても多言語表記をしているが、まだ英語だけの表記のものが半分近く残っている。今回世界遺産登録のために予算化してあり、これ機に多言語化する予定でいたが、世界遺産登録が見送られたことでこの先また進みが遅くなると思う。また、各お寺の名所掲示板も基本的にすべて英語表記までは行われており、最近建て替えを行っているものは、4ヶ国語表記にしているが、まだ、半分に満たないくらいである。

(委員) 英語と中国語と韓国語で、中国語は繁体か簡体か。

(事務局) 中国語は繁体だけである。

(委員) 最近は東南アジアの方も来られると思うが、タイやマレーシアへの対応はなにを考えているのか。

(事務局) これまでは考慮していなかった。今後は、今年度から次期基本計画の実施計画事業の策定を行うので、その中で取り上げること考えている。

(委員長) これからインドネシアもマレーシアからの観光客も増えるので、もし鎌倉がそういうところを狙うのであれば、アラビア語の対応とか食事の問題とか、新しい言語についても検討する必要があるかもしれない。

(委員) 県としても悩ましいのが、時代によって入ってくる国の方も変わってくるので、どこまで対応するのかという話があり、極端な話、ある程度想定して20言語くらい対応すればよいのではという意見もあるが、それを現実的にどこまで対応できるのかというのがある。ピクトグラムなどわかりやすい表記もあるので、すべて言語ではなくて、そういうような表示の仕方もあるのかなと思う。

(委員長) 国際情勢は変わるので、看板を整備した頃にはほかの国の人に来るということもあるので、その辺については、次の評価の方で進めたいと思う。

イ. アクションプランの進捗状況について

事務局からアクションプランの進捗状況について説明を行った。

(委員) ここには特に世界遺産登録ということは書かれていないが、結果的にこれは世界遺産対策か。

(事務局) まさにそれを踏まえて2ページのサマリーとして総括的な部分の目標が世界遺産の登録で大きく盛り上がったという記述から始まっているということである。ここが幹であって、32ページの部分は枝葉の部分になるので、世界遺産関連の部分があるの中にちりばめられているというつくりでご理解いただければ良いと思う。

(委員長) 世界遺産関連施策自体はダメになったが、観光施策としては一歩ずつ確実に実行していったということか。

(委員) 38ページの上から4行目に、実績の欄に、観光ごみに対する3R推進について書いてある。実施主体が資源循環課なので観光商工課とは直接は関係しないが、花火大会は盛況で良かった。ゴミを持ち帰りという形にしないで、観光客のごみをボランティアとして回収し、分別回収も間に合わない状態だった。しかし、これは大いに問題で、子どもたちにも分別回収でないのかとか持ち帰りではないのかと指摘された。やはり本来の姿はここに書いてある通り花火大会のごみに関してもゴミ持ち帰りとは分別回収を観光客に自らやってもらうという姿勢を強調していかないと他の時も勝手に捨てていいのかなということにならないかと懸念した。

3. 審議事項(2)平成25年度版進行管理評価報告書の内容等について

(委員) 一点は、実績概要の4ページのところで、世界遺産登録の関係ですが、囲みのところや右側の5ページの(5)のところのおもてなしということで触れられている。特に4ページの(1)のところで、市民の理解を深めましたということでいろいろな試みが書いてある。教育委員会との共催の文化財保護のポスター事業というのは分かるが、青少年指導員協議会で世界遺産登録の作文コンクールを毎年やっている。去年は500何点という応募が小学生からあり、世界遺産を中学生の立場で理解を経て尚且つ提言を聞くという点では良いものだった。作文コンクールなんかもやることによって若い人たちもかなり世界遺産が浸透したという感じがしたので、ここに入れられないかという提案である。世界遺産については、57ページ下から3行目のところで、見送られましたと書いてあるが、非常にあっさりしすぎていて、イコモスの今回の評価の中で一番問題にしなければいけないと思うのは、周辺の都市化の懸念という指摘があった点だ。やはり都市化の懸念という材料が鎌倉にとって一番最低ランクの評価

になってしまったと思う。史跡等も実際に示せる物が無いという指摘もあった。それはなかなか厳しいものであるが、都市化の懸念に関しては、今後再チャレンジするのであれば十分改善することができると思う。そういう点で評価の中の観光都市としてのおもてなしの中、62ページになるが、景観の保全という記述があるが、これはぜひ強調していただきたい。今の市長と懇談したときの話では、景観保全について積極的にもっと取り組まなければいけないと述べた。例えば緑の保全も含めて都市化の懸念をイコモスに指摘されてしまったので、やはり鎌倉市が本当に景観を保全する、緑を保全するという姿勢を今後どう示していくかが、世界遺産に再チャレンジするときの大きな要素になると思う。評価の方ではこの部分をもっと強調してもらいたいと思う。先程、質の問題と指摘された委員がおりましたが、平泉もそうですが景観の保全に積極的に努めると、鎌倉になぜ多くの人があるのか。古都としてのおもてなしだけではなくて、静けさ、景観、雰囲気そういったものに皆さん憧れてくるのだと思うので、それをどう保全するかが非常に大事なポイントだと思う。むしろこの5番目の観光都市としてのおもてなしのところに、おもてなしと景観の保全というくらいの見出しにしてもいいくらいのものだと思う。市長も言っていたが、積極的に景観を保全する新しい条例をつくるとか、緑を保全する新条例をつくることを検討していかなければならない。そういう流れになっていくと思うので、もう少し強調して、今後の我々の最大の課題である景観の保全をどう図っていくかに関して積極的な努力が求められますと、というような表現をぜひ入れていただきたい。世界遺産は見送られことに対する表現があっさりしすぎるので、ぜひ反省点としてそういったものも入れられないかなと思う。

(事務局) 57ページのサマリー的な部分ですが、これは24年度の実績に対する評価であるので、先程の冒頭でも申し上げたように、24年度は世界遺産に向けていろいろな取り組みが市だけではなく、いろいろな関係団体、関係事業者、JRなどを含めてキャンペーンなどにも積極的に参加していただいて、全体的な盛り上げをあげていたのが24年度であるので、その実績である。評価は本来世界遺産の取り組みが積極的に行われたことは、本当に喜ばしかったとか喜ばしくなかったとか、そういう評価になると思う。ただ、既に25年の8月時点での評価であるので、一番最後に8月の時点では既に見送られてしまったということに触れないと読み手がわからないので、そういう表現を少し加えたということである。ここで、●●委員のご指摘の記述については24年度実績に対する評価ではなく、61ページ以降の今後に向けての課題、提言の中で、今後の取り組みで更なる取り組みが必要だとかそういう表現を加えていけばいいと考える。

(委員) 世界遺産になれなかったということ、このほか鎌倉市観光基本計画進行管理委員会がどこまで述べるのか。疑問があって、そもそも鎌倉のまちとはどういう風に

あるべきなのか、という大きな枠組みの中において、これは述べられるべきものであって、観光の視点から保全と言っていくのは、ちょっとなじまないと感じるころがある。特に反対ということではないが、共感はあるがここでどのように取り扱っていくかというのは慎重にやったほうがいいと思う。

(委員) 57ページの下3行に書かれているのが、これがまさにそういうことだと思う。

世界遺産登録については残念だが観光客から見て観光資源及び景観を入れるかというのはあるが、その持つ価値は変わりありません、としている。世界遺産の都市化への懸念とかいう話は都市そのものの問題で、ここで論じられるようなものではないと思う。

(委員) 58ページのアクションプランに対する個別の評価のところ、イのいつでも、誰もが鎌倉らしさを楽しめるまちにしようというところで、朝から夕刻までの観光を振興するために取り組みが必要です、という風に書かれているが、昨年度朝の観光を広く広めましょうという企業ベースでの取り組みもあったので、そういうことも取り組みました、いや取り組みしていますくらいの、表現があっても良い。この表現だと全くやっていないように感じる。そういうことも昨年度はやり始めたと思うので、現状朝食が売りのレストランなんかもずいぶん増えており、そういう意味では24年度の時点で「朝マップ」というものが出来ているので、取り組みが進んでいます、若しくは進み始めました、という形で評価をしてもいいかと思う。

(委員) 60ページのところで、大きな観光協会とか商工会議所などの団体ではないところが盛んにいろいろなことに取り組んでいるが、そういうことについて我々として、ありがたいというメッセージとか、市としてこんな事業があったことを把握しているというようなことがみなさんと我々にいい関係を作っていく一助になるのではないかと思う。それが一つで、例えばお寺さんでのコンサートであるとか様々ないい関係がある。全く個人ベースでやっているところもある。それからもう一点、江ノ電のゴールデンウィークの時の困ったことがあって、住民がまさに被害という風に言ってもいいくらいの困難な状況があって、その辺をやはりここにも書いておいた方が、観光客アレルギーというものをきちんと考えているというところを載せておいた方がいいのではないか。負のイメージもきちんと書き込んでいく方がベターではないかと思う。

(委員) 私は世界遺産も大賛成で大推進した方であるが、実は町内会やいろいろな団体、あるいは社協などでも聞こえてくるのは世界遺産にならなくてよかったということで、これが6割から7割であった。これは困った現象だなと思い、そうではないんだ、目的はこういうことなんだといくら説明しても聞かなかった。そういう状態では、世界

遺産は別としても観光立市は非常に難しいのではないかと思います。どうやったら反対者や負の部分解消していくかは最大の問題とと思っている。

(委員) いかに分散化させるかという仕組みやシステムを協働してやっていかないとだめだと思う。

(委員) みんな被害者意識になってしまっているのだから、そこを解決していかないとおもてなしといくら言っても本当のおもてなしにならない。

(委員) 分散化、滞在化、分散の時間的変動と鎌倉の全体の中でのものを含めて、ここにも書いてあるが、着地型など従来の若宮大路じゃない鎌倉もありますよということをしていろいろ取り組まれていると思う。それにしても1900万人という絶対的な利用のカバーを支えているところがあって、今の交通の問題、江ノ電も道路もそだが、先程の質のこともあるが、ある程度鎌倉は大事な部分は規制をコントロールするという部分も全体としてはあってもいい時代だろうと思う。

(委員長) 前回の観光基本計画を作った時、観光需要マネジメントとか現場のマネジメント的な考え方について、若干まだアレルギーがあった時代だった。この時代だし、1800~1900万人くらい定期的に観光客が来る中で、ここから時間と空間をうまくマネジメントして、質の高い観光サービスを提供するところが前々からの理念になっていると思う。そういった意味で、19ページの事績概要の中で、月別観光客数が出ていますが、ピーク時の観光客数の伸び数をもう少し評価してもいいのではないかと思います。これは地元の皆さんの努力のたまものだと思う。ピークでなくても鎌倉はこれだけきている、ピーク時はある程度抑えられている。

(委員) ディズニーランドでもピークを軽減するためにアフターファイブのパスポートを出しており、料金などでの誘導というのはあると思う。例えば寺院の中でコンサートをやるなど、早朝割とか季節別料金とかそういうものがあるかもしれない。今回知事が台湾の方に直接行ったとき、台湾からは見返りを求められることが多く、神奈川県は何が出来るかと考えた時にスペシャルな企画が提案できるのではないかと、宿題になっている。その一つが、例えば普段公開していないところを特別に公開するというようなことが鎌倉はたくさん出来るのではないかと。このようなことを使っていくと、観光客のコントロールができる可能性があると思った。

(委員) それに付け加えさせてもらいたいのだが、58ページのイの平日や閑散期の来訪者の地域、季節、時間の偏りの改善という所を評価として、より強調した形で表現をした方がいいのではないかと思います。この3年ほど前から地元の方で寺社と組んで、2

月3月の閑散期に特別拝観をするという動きがある。13仏参りという商工業者も連携して寺社とやっているが、そういう動きが出て来ているので、そういう評価もしていただきたいと思っている。繁忙期をコントロールすることが鎌倉ではなかなか出来ないわけだから、むしろ●●委員がおっしゃられたようにプレミアムをつけた閑散期の魅力的な発信ということをもっとすべきであることをここに入れ込んでいただくとよい。

(委員長) 閑散期などの観光客の増やす取り組みについては、早朝も含めてやられてきたということで、更にそこを強化するために先程指摘があったようなプレミアムをつけて更に増やしていくというようなことか。

(委員) 例えば、江ノ電が混んでしまうのは、今回のフジテレビのドラマもあるが、極楽寺駅が出たり、主にテレビであるが、だいたい鎌倉の観光スポットを撮る時に、江ノ電が大きく取り上げられる。季節の閑散期だけでなく別の場所ももっと取り上げてほしい。例えば海蔵寺みたいなお寺は、平日も非常に静かで一番鎌倉らしさを味わえるのではないかと思う。特別公開も含めて、江ノ電だけではなくいろいろな鎌倉の魅力を伝える、そういう取組みを進めることによって、出来るだけ地域の偏りを散らし、江ノ電以外の場所にも観光客の方に行ってもらえるようなことができないか。そういう意味で季節だけでなく、地域の偏りを改善する。観光協会や観光商工課の方にロケの相談があったときには、ぜひこういうことを取り上げてもらいたいということでもしてもらえないか。それを見て観光客が動くことから、そういう努力なんかも今後あると、地元の人たちの迷惑度も散らすことが出来るのではないかと思う。

(委員) ここには、イコモスのことについてあまり触れられていないようなのだが、外国人が来た場合に現金でのやり取りが非常にわかりにくい。確か成田で外国人にJRのスイカをクレジットカードでの対応が行われて、徐々に今円覚寺や建長寺、長谷寺など大きな寺院はそういう対応になってきているようである。そういうことを積極的に推進していこうというようなメッセージ性があるのもいいのかなと思う。それに関連もするかもしれないが、例えば朝早く来るとこういうキャンペーン、あるいは割引があると、今そういうものに敏感になっているので、積極的なシステム利用みたいなところにも言及してもらってもいいのではないか。

(委員長) ASEANからの来訪者数の推移みたいなものはどこかに載っているのか。

(事務局) 鎌倉市のものは載っていない。日本全体の傾向としてということである。

(委員長) そうすると日本全体としてはそういう傾向があるということで、鎌倉市としてそういうことをやるべきなのかということはこの評価ですべきである。ASEAN諸国からの訪日というのを積極的に鎌倉も受け入れるべきだと考えるなど。そこまで結論は決まっていないかもしれないが。

(事務局) 正直なところ先程からお話あるようにお客様のキャパオーバーというのが現状というところがあり、観光に携わっている者としても、繁忙期の電話の対応とか苦情の対応などで相当なエネルギーを使っている。それで新しい取り組みに力を回せないというのも実態である。そんな中で、先程も少し触れたが、訪日観光客の誘致というのは、今はピークであるが将来見越した時に観光客の需要が減少していくことが明らかに見込まれる中で、それを中長期的な問題として外国人の誘致も徐々に図っていくような考えを持っている。

(委員長) 中国はまだ人口がいるが、韓国、台湾は人口が減る。そこからまだ来ることを見越してやるのかということである。まだASEANのように人口が伸びているところの方が良いかもしれない。鎌倉はどう考えるのか。果たしてイスラム教徒が来た時に、食事が出来るところがいくつくらいあるのかを考えたとき、鎌倉にはないのであれば鎌倉は諦めますとするのかそうではないのかということだと思うが。

(事務局) まだそういう結論を出すような基盤を持っていない。目途もたっていないという状態である。

(委員長) であれば、市ですべて抱える必要はないと思う。県内の大学でも、イスラム語を教えているところもある。そういったところに手伝っていただくとかも考えられる。

(委員) 神奈川県の方でも、8月27日に第一弾のムスリムの研修会が開かれ、秋口に第二弾を開催する予定で、そのような取り組みを始めている。

(委員長) 県や国はそこを重点化すると思うが、鎌倉はそれを受け入れられるのかということがあると思うが。

(委員) 62ページの訪日観光客の誘致は、少子高齢化で国内旅行者数が減るから外客をやるという、この表現を頭に出すべきではないと思っている。こんな時代でも1900万人来ている立派な観光地で、減るから誘致を狙うということではなく、国際都市、世界遺産を目指そうとしていたわけであるから、国際化とかグローバル化という中で、鎌倉の良さを海外にもっと知ってもらおうということがある。非常に理想的かもしれないが、人口が頭打ちになるとかそういう話は二次的にはあるが、そういう趣旨で外客

をやっているというニュアンスに取られる。もっと大きな志があるのではないか。それともうひとつ、ASEANやムスリムなどどの国がいいのかという話があったが、事実浅草でもマレーシアなどのお客さんが増えていると現場の方からは聞いている。だからどっちかとかいう話ではないが、先程話があがった鎌倉の観光の仕方とか観光の資源にあった観光スタイルというのはこうだということは海外のお客さんにあっても同じで、逆にそれは言い方次第である。何が言いたいかというとまだ中国の団体客というのは日本の昭和40年代の観光のようにどっときて、それでランドオペレーターが話をするツアーもまだまだ多いわけである。そういうものに併せるのかということと違うということである。4、5年前ですが、京都の観光課長と話した時に、京都はあえて中国を狙いませんと言っていた。それでも来るが、やはり京都・鎌倉の良さとかそういうところの観光のスタイルとかを知っている個人客、個人客はお金も持っており、非常にゆとりある観光なり本質の日本を求めているので、それは今の鎌倉の観光をわかっていただける外客の方は、マレーシアでもASEANでも歓迎し、その時に言語をどこまでやれるかみたいな話などは現場ではあると思う。そういうスタンスで鎌倉市はいいのではないかと思う。

(委員) 関連して、62ページの7ですが、●●委員が観光協会から出ているので僭越ではあるが「とりわけ市と鎌倉市観光協会が他の団体を主導して、その役割分担に応じて、協働」と書いてあるが、じゃあどういう役割をしていくのか。あるいは今ここで様々な議論をして、いるいわゆる戦略は、どこが主体となって立案していくのか。この辺のところはそろそろ観光基本計画をつくったこの皆さんのメンバーと長いことお話をしているので、そろそろピンポイントでやっていった方がいいのではないかと思う。そして8で鎌倉ならではの観光ということを、どういう位置づけに戦略的にしていくのか。これをそこの中できちんと作っていくとみなさんがよく理解をして、まつりとはまた違った収入ベースの話であるとか、あるいは収支のバランスの話であるとか、そういう話も具体的な話がでてきて、実効性がでてくる戦略戦術会議になるのではないかと提案したい。

(委員長) また新しく基本計画を作るのか。

(事務局) 現行の基本計画は27年度までである。

(委員長) 前回基本計画を作成したときには2年くらいかけて作った記憶があるので、そろそろ指摘いただいたように戦略を練るならその辺も考えなければならない。

(委員) 観光基本計画は、前回と同じだとするともうワンランクブレイクダウンした実行計画、実施計画、アクションプランを民間主体での計画がもうそろそろ必要だと思う。

そういう中で、●●委員が言われたような、NPOの方々の活動が活発になっているという、そういう人たちの鎌倉の地域づくりに関係している。現実そこでどうこう位置づけていないという話は誰が主体でどういう財源でやるかというのはあるが、次回時にはぜひ鎌倉観光事業アクション管理というのをぜひ検討したほうがよい。

(委員) 委員長が冒頭に言った、資料1の用紙には、この辺のところを入れてもう少し誰がなにをやっているかわかる形にさせていただくといい。実施部隊であったり実行部隊もやっているの、わかりやすいかなと思う。

(委員) 委員がNPOと言われたが、今回の評価の方で自転車に乗る観光がしやすい整備が望まれると59ページのエのところを書いてある。今回鎌倉市とNPOとの協働事業で、市と話を進めているが、NPOから提案された2つ共同事業の中に、この自転車道の整備という事業を市に提案して、市と共同で市民団体とやりましょうと提案がでている。ここにも書いてもらったのでよかったが、今後のエコツーリズムにもなるが、自転車による観光がしやすい環境整備で、自転車道をもっと整備する事業というのを市に提案していくということは、実際に今年度の予算で協働事業で出ているので、そういう意味で委員が言ったような新しいNPOも交えた提案というのはこれから大きな課題になっていくのではないかなと思う。

(委員) 58ページのウ、最後のところで、産業の成長って少しオーバーかと思い、その言葉を使うべきかはまさに今農水とか観光の分野でも一緒に使えるとなっている。観光の6次産業化とはまさにそういう話であるが、それもまさに着地型と深く関わっているところである。人の旅行だけでなく、地場産品あるいはものつくりの話としてひとつの動きが見られる。今後更にそういうことを観光を通じて促進していくということは強調していただいた方がいいと思う。

(委員) 文言の話であるが、58ページの一番上も、いろいろなところで出てくるが「評価できます」「評価されます」というのはどういう趣旨をもってなのかということで、この辺の解釈の仕方を、この場合誰が誰に何に対して評価するのか。もちろんここは評価報告書ですからそうであるが、言い回しとして、どうなのだろうという所がある。

(事務局) 事務局としてはこれまで長年、評価報告書というのはこういう表現で皆さんの意見が集約されてきたので、●●委員がおっしゃられたように、市民活動や事業者の方でこういう動きが出て来たのは非常に喜ばしいことだということの評価しますという言い方で記述をしてきたと理解をしていた。

(委員) 役所から見ると、そういう風に皆さん読めるものか。例えば、評価というのは、良い評価も悪い評価もあるわけだが、その辺の微妙なニュアンスが一言評価されまですと終わると読んだ人がどういう風に理解できるのかなと思う。一部には「望まれます」や「期待します」と出てくるが、それはわかるが「評価できます」という表現は変えた方がいいと思う。

(委員) 例えば具体的には「良い方向です」や「良い傾向です」などにしたら良いのではないか。

(委員長) それでは今の点も踏まえて持ち帰りいただいて、また気になる点があれば連絡いただく形をお願いします。

(事務局) 本日の意見を踏まえた上で修正を行い、また事前に送付する。細かな表現も含めて次回の会議までにご意見をいただければ、最終案としてブラッシュアップしたものを当日お配りする形で進めたいと思う。

4. その他

5. 閉会あいさつ

以上